

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果分析【行田市】

調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することによって、国や全ての教育委員会における教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図るとともに、学校における個々の児童生徒への教育指導や学習状況の改善・充実等に役立てる。また、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査概要

【調査日時】令和5年4月18日（火）

【調査事項】①児童生徒：教科調査〔国語、算数・数学、英語（中学校）〕、質問紙調査

②学校：質問紙調査

【調査対象】小学校第6学年・中学校第3学年

教科に関する調査結果

小学校第6学年

【国語】

分類	区分	平均正答率(%)		
		行田市	埼玉県	全国
全体		65	68	67.2
知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	70.7	72.8	71.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	60.3	64.4	63.4
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	72.3	73.9	72.6
	B 書くこと	23.2	26.1	26.7
	C 読むこと	67.2	72.5	71.2

○「話す・聞く」の内容全体を見ると全国平均を下回っているが、インタビューの内容をもとに、自分の考えを形成するといった項目に関しては、全国平均を上回っている。

▲原因と結果など説明文の構造を理解することが苦手である。

▲複数の資料から目的に合った情報を読み取り、自分の考えを構築することが苦手である。

【算数】

分類	区分	平均正答率(%)		
		行田市	埼玉県	全国
全体		60	62	62.5
学習指導要領の領域	A 数と計算	65.1	67.1	67.3
	B 図形	44.5	47.8	48.2
	C 変化と関係	67.4	71.0	70.9
	D データの活用	63.7	66.3	65.5

▲問題に応じて自分の考えや、解法の理由を記述することが苦手である。

▲1つの解法ではなく、様々な視点から問題が展開している内容が多く、苦手と感じている児童が多い。

中学校第3学年

【国語】

分類	区分	平均正答率(%)		
		行田市	埼玉県	全国
全体		69	71	69.8
知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	69.1	68.8	67.5
	(2) 情報の扱い方に関する事項	61.5	64.3	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	74.7	75.9	74.7
思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	83.8	83.4	82.2
	B 書くこと	62.9	65.0	63.2
	C 読むこと	62.5	65.2	63.7

○インタビューにおいて目的に応じた質問を考えたり、聞き取ったことをもとに自分の考えを形成したりする内容は全国平均を上回っている

▲事例と根拠、具体と抽象といった説明文を解釈する上での基礎的な知識が身につけていない。

▲複数の文章や資料から目的に合った情報を読み取ることが苦手である。

【数学】

分類	区分	平均正答率(%)		
		行田市	埼玉県	全国
全体		49	52	51.0
学習指導 要領の領 域	A 数と式	61.5	62.9	63.0
	B 図形	30.4	34.5	33.2
	C 関数	48.7	52.0	51.2
	D データの活用	46.9	52.0	48.5

▲四分位範囲といった基本的な知識の定着に課題がある。

▲ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することが苦手である。

【英語】

分類	区分	平均正答率(%)		
		行田市	埼玉県	全国
全体		41	46	45.6
学習指導 要領の領 域	(1) 聞くこと	54.7	59.6	58.4
	(2) 読むこと	48.2	51.4	51.2
	(3) 書くこと	17.5	24.1	23.4

▲情報を正確に聞き取るリスニングが苦手である。

▲日常的な話題や社会的な話題に、短い文章（10～20文程度）の概要や要点を捉えることが苦手である。

▲目的に応じて英文を正確に書くことが苦手である。

質問紙に関する調査結果

【○全国平均よりも肯定的な回答が多い内容 ▲全国平均よりも否定的な回答が多い内容】※抜粋
小学校

- 自分にはよいところがある。
- 先生は、あなたのよいところをほめてくれる。
- 将来の夢や希望をもっている。
- 人の役に立つ人間になりたいと思う。
- 友達関係に満足している。
- 授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている。
- ▲自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。
- ▲読書が好き。
- ▲地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。
- ▲土曜日や日曜日などの学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか。
- ▲5年生までに受けた授業で、PC・タブレット PC などの ICT 機器をどの程度使用したか。
- ▲友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。

中学校

- 自分にはよいところがある。
- 先生は、授業やテストで間違ったところ、理解していないところについて分かるまで教えてくれる。
- 将来の夢や希望をもっている。
- 人が困ったときは、進んで助けている。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。
- 土曜日や日曜日などの学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか。
- 今住んでいる地域の行事に参加している。
- ▲自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う。
- ▲1、2年生までに受けた授業で、PC・タブレット PC などの ICT 機器をどの程度使用したか。
- ▲毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きている。
- ▲昼休みや放課後、学校が休みの日に本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行くか。

学力向上に向けた手立て

【国語】

- ・文章を読み取る力の育成を図るために、新聞社が提供しているワークシートを全小・中学校に導入し、活用する。
- ・「未来へつながる学びを支援する訪問」として、小、中学校の国語担当者を中心とした指導案検討会と授業研究会を実施し、読む力の育成に向けた授業改善を図る。

【算数・数学】

- ・基礎的なドリル学習だけでなく、他者と話し合いながら課題を解決する対話的な学びの視点で授業改善を図る。

【英語】

- ・デジタル教科書を活用し、英語を聞く、話す機会を増やす。
- ・ALT を活用し、自分の考えを実際に話す機会を増やす。

→各教科において協働的な学びを意識した授業改善が重要となるため、授業力向上研修や支援担当訪問等を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体化を視点とした授業改善に向けた指導を行う。

【その他】

- ・非認知能力育成検証研究として「こころアップタイム」を導入し、児童生徒の非認知能力の育成を図るとともに学力の向上につなげる。
- ・授業支援ソフトの活用について情報提供を行い、協働的な学びに向けた授業改善を行う。